

2016年西洋中世学会会員年間業績リスト（2016年1月～12月）

* 広い意味での西洋中世（古代末期～近世、イスラーム、ユダヤ、中東アジアなども含む）に関する刊行された業績を、自己申告していただいたものです（氏名=五十音順）。

朝治啓三（アサジ ケイゾウ）

「世紀転換期ミュンヘン大学で医学学を取得した日本人医学者」『関西大学文学論集』66-3, pp.51-78.
『住友文庫ドイツ医学学位論文目録』の刊行『住友資料館叢書 月報』, 31.
『住友文庫ドイツ医学学位論文目録』の編纂『西洋史読書会だより』（京都大学文学部西洋史研究室）57.
「マグナ・カルタ」、「アンジュー帝国」、川成洋編『イギリスの歴史を知るための50章』明石書店。
[書評] Colin Veach, *The Lordship in Four Realms: The Lacy Family, 1166-1241*, 『西洋中世研究』 8、290-291 頁。

阿部俊大（アベ トシヒロ）

『レコンキスタと国家形成——アラゴン連合王国における王権と教会——』（九州大学出版会）。
「レコンキスタと中世スペインの政治構造」『歴史と地理』（山川出版社）699号、57-60頁。
[翻訳]（単独訳）
アントニ・アルバセーテ＝イ＝ガスコン「15世紀バルセロナの解放奴隷たち」『言語科学』（九州大学大学院言語文化研究院言語研究会）51、89-110頁。
アントニ・アルバセーテ＝イ＝ガスコン「遺言状に見る15世紀バルセロナの解放奴隷たち（上）」『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）37、125-133頁。

阿部善彦（アベ ヨシヒコ）

「知恵の探求が愚者によって始まるのはなぜか——クザーヌスの *Idiota de sapientia* から考える」『国士館哲学』（国士館大学哲学会）20、64-87頁。

猪刈由紀（イカリ ユキ）

「ハレ・フランケ財団（シュティフトゥンゲン）における救貧と教育——神との距離・社会との距離・積極性」『キリスト教史学』70、92-112頁

池上俊一（イケガミ シュンイチ）

「中世都市トゥールーズの執政制」神崎忠昭編『断絶と新生——中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』（慶應義塾大学言語文化研究所）161-183頁。
「思想の言葉——音と声から立ち現れる新たな歴史像」『思想』1111、2-5頁。
「ヨーロッパ中世における鐘の音の聖性と法行為」『思想』1111、6-26頁。
「歴史学の作法7——社会史の冒険」『UP』（東京大学出版会）519、31-38頁。
「歴史学の作法8——無告の民の歴史」『UP』（東京大学出版会）521、17-24頁。
「歴史学の作法9——文化史の課題」『UP』（東京大学出版会）523、30-37頁。
「歴史学の作法10——歴史の土台としての自然」『UP』（東京大学出版会）525、37-43頁。
「歴史学の作法11——感情史の可能性」『UP』（東京大学出版会）527、15-22頁。
「歴史学の作法12——甦る政治史」『UP』（東京大学出版会）529、25-31頁。

「パリが美食の都になった理由」『TRANSIT』33、78-79 頁.

池田真弓 (イケダ マユミ)

「『健康の庭』——本草挿絵の諸問題について」『言語文化』(明治学院大学言語文化研究所) 33、28-46 頁.

「デジタル画像を用いた15世紀装飾本の顔料分析の試み」『慶應義塾大学 DMC 紀要』(慶應義塾大学 デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター) 3、58-62 頁.

石黒太郎 (イシグロ タロウ)

The Doors of Janus in the Old English *Orosius*. *The Journal of Humanities* (Meiji University) 22, pp. 19-27.

Orosius in the Old English Bede. 『明治大学教養論集』512、139-147 頁.

Parentheses in the Old English *Andreas*. 『明治大学教養論集』518、123-138 頁.

[書評] Haruko Momma, *From Philology to English Studies: Language and Culture in the Nineteenth Century*. *Studies in Medieval English Language and Literature* 31, pp. 83-91.

石坂尚武 (イシザカ ナオタケ)

『地獄と煉獄のはざままで——中世イタリアの例話から心性を読む——』(知泉書館).

[書評] 西本晃二『ルネッサンス史』『日伊文化研究』54、96-101 頁.

石田隆太 (イシダ リュウタ)

「《individuatō》と《principium individuationis》の多様性—トマス・アクィナスによる個の思想の一側面」『哲學』(日本哲学会) 67、153-68 頁.

「質料概念と天使の非質料性——トマス・アクィナスによる天使論の一側面」『中世哲学研究』(京大中世哲学研究会) 35、22-40 頁.

[翻訳] 「トマス・アクィナス『定期討論集 霊的被造物について』第四項 試訳」『古典古代学』(筑波大学大学院人文社会科学研究科古典古代学研究室) 8、31-56 頁.

[翻訳] 「トマス・アクィナス『定期討論集 霊的被造物について』第五項 試訳」『宗教学・比較思想学論集』(筑波大学宗教学・比較思想学研究会) 17、105-27 頁.

[翻訳] 「トマス・アクィナス『定期討論集 霊的被造物について』第六項 試訳」『筑波哲学』(筑波大学哲学研究会) 24、39-63 頁.

伊藤亜紀 (イトウ アキ)

「ボッカッチョ・リヴァイヴァル——『デカメロン』伝説写本に描かれた「クライマックス・シーン」」
甚野尚志・益田朋幸編.

『ヨーロッパ文化の再生と革新』(知泉書館)、247-266 頁.

「「イタリアらしさ」を求めて——服飾とモード」藤内哲也編著『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』
(ミネルヴァ書房)、266-284 頁.

「西洋の服飾 e 13~15 世紀」牛腸ヒロミ他編『被服学事典』(分担執筆、朝倉書店)、91-93 頁.

『青を着る人びと』(東信堂).

[書評] 「「横たわる裸婦」の行き着く先は 高橋朋子『ウェヌス——豊穡からエロスへ』」『図書新聞』
3285、8 頁.

伊藤進（イトウ ススム）

[翻訳]『フランス・ルネサンス文学集 2 笑いと涙と』（宮下志朗、平野隆文との共編訳、「解説」執筆、白水社）。

井上浩一（イノウエ コウイチ）

“The Historical Methodology of Anna Komnene: A Case Study of the *Alexias* Book XII Chapter 3”, *Zbornik radova Vizantoloshki institut*, vol. 52, 2015, pp.195-206.

「ビザンツはローマより出でて……」『世界の名前』岩波新書、94-96 頁。

今井澄子（イマイ スミコ）

« Saint Luc peignant la Vierge de Rogier van der Weyden: Une innovation dans le contexte du portrait « déguisé » chez les Primitifs flamands », *Bulletin of Osaka Ohtani University*, 50, pp. 101-125.

「西洋のキリスト教美術における「天国」——《ボーンの祭壇画》の肖像表現を手がかりに——」『論集 他界観』（大阪大谷大学歴史文化学科 調査研究報告書 第2冊）、78-102 頁。

「ブルゴーニュ公シャルル・ル・テメレールの祈禱者像」『大阪大谷大学 歴史文化研究』16、1-20 頁。

「つかの間の青春—《ショーモン・タペストリー》（一五〇〇～一五年頃）のメッセージ」『美術フォーラム 21』33、29-34 頁。

「《カエサルのタペストリー》の政治的効果—ブルゴーニュ公シャルル・ル・テメレールのイメージ利用をめぐる考察—」『西洋中世研究』8、41-61 頁。

岩波敦子（イワナミ アツコ）

「中世地中海世界における科学知の継承と占星術的天文学」神崎忠昭編『断絶と新生』（慶應義塾大学出版会）、31-55 頁。

印出忠夫（インデ タダオ）

(加藤玄と共著) *Petite histoire des historiens et des recherches historiques méridionales du Moyen Âge au Japon. Annales du Midi: revue de la France méridionale* 294, pp.161-164.

Formation des « comptes de l'anniversaire » au sein du chapitre collégial Saint-Paul-de-Mausole (Saint-Rémy-de-Provence) au XIVe siècle, *Annales du Midi: revue de la France méridionale* 294. pp.191-217.

「『永遠のミサ』を保証する『永遠の収入』—14 世紀アヴィニヨン司教座参事会管理下のシャペルニーをめぐる—」『西洋中世研究』（西洋中世学会）8、209-228 頁。

上田耕造（ウエダ コウゾウ）

『図説 ジャンヌ・ダルク—フランスに生涯をささげた少女』（河出書房新社）。

内川勇太（ウチカワ ユウタ）

「イングランドの政治的統合—「アングル人とサクソン人の王国」におけるマーシア人の集会」『史学雑誌』125(10)、1-41 頁。

[共訳]「第一リヨン公会議（1245 年）決議文翻訳」（藤崎衛監修）『クリオ』30、100-127 頁。

[新刊紹介]「佐藤彰一『禁欲のヨーロッパ—修道院の起源』」『史学雑誌』125(1)、144-145 頁。

梅村尚幸（ウメムラ ナオユキ）

「ドイツ城郭研究の過去と現在」『ドイツ研究』（信山社）50、101-108頁。

「一七世紀神聖ローマ帝国における城館の空間使用法と社会構造—ドイツ・ルネサンス城館ヨハニスブルク城の事例—」『建築史学』67、63-89頁。

[共訳]『クラナハ展 公式図録』（国立西洋美術館）。

江川温（エガワ アツシ）

「虚構の「癩者」たち——中近世南西フランスにおける被差別民「カゴ」(Cagots)——」『適塾』49、17-28頁。

[書評]「河原温・池上俊一編『ヨーロッパ中近世の兄弟会』」『史学雑誌』125-4、79-87頁。

大黒俊二（オオクロ シュンジ）

「声のゆくえ—15世紀イタリアの筆録説教から—」『思想』1111、65-79頁。

「書体から見る「中世とルネサンス」、南塚真吾、秋田茂、高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える—』ミネルヴァ書房、24-26頁。

「野戦郵便とリテラシー—第一次大戦期イタリアを例に—」『歴史科学』226、28-32頁。

「他者としての「西洋史学」によせて」『西洋史学』260、1-6頁。

大高順雄（オオタカ ヨリオ）

L'histoire ancienne jusqu'à César (deuxième rédaction), édition d'après le manuscrit OUL1 de la bibliothèque de l'université Otemae (ancien Phillipps 23240), étude de langue, glossaire et et index nominum Yorio Otaka, introduction et bibliographie Catherine Croizy-Naquet, Medievalia 88, Collection dirigée par Denis Hüe, 2 vol., Orléans, Editions Paradigme, 2016.

大沼由布（オオヌマ ユフ）

「甦る鳥たち—古代中世ヨーロッパにおける鷲とフェニックスの描写」東雅夫・下楠昌哉責任編集『幻想と怪奇の英文学 II—増殖進化編』（春風社）、146-65頁。

“Convention Through Innovation: Marvels in *Topographia Hibernica* by Gerald of Wales.” *Aspetti del meraviglioso nelle letterature medievali: Medioevo latino, romanzo, germanico e celtico*. Ed. Franca Ela Consolino, Francesco Marzella and Lucilla Spetia. Brepols, pp. 69-80.

大野松彦（オオノ マツヒコ）

「カールシュテイン城の黙示録——母型としての英仏黙示録、モニュメンタル化によるその変容——」田中久美子編『黙示録の美術—ヨーロッパ中世美術論集2』（竹林舎）、285-316頁。

「《ドゥース黙示録》*The Douce Apocalypse, Oxford, Bodleian Library, Ms. Douce 180*」（東京藝術大学付属図書館所蔵・中世写本ファクシミリ研究）『Aspects of Problems in Western Art History』（東京芸術大学西洋美術史研究室紀要）13、133-140頁。

[新刊紹介] Jan Royt, *The Master of Třeboň Altarpiece*, Prague 2014, 『西洋中世研究』8、285-286。

岡北一孝（オカキタ イッコウ）

「模倣と修整、アルベルティによるルチェッラーイ礼拝堂の聖墳墓」、『Arts & Media』（大阪大学大学院文学研究科文化動態論専攻アート・メディア論研究室）6、28-49頁。

[新刊紹介] Sabine frommel (ed.), *Les maquettes d'architecture: fonction et évolution d'un*

instrument de conception et de réalisation, 『西洋中世研究』、8、265 頁。

尾形希和子 (オガタ キワコ)

[共訳] カルロ・ギンズブルク著「ヴァールブルクの鉄 上」『みすず』648、18-32 頁。

[共訳] カルロ・ギンズブルク著「ヴァールブルクの鉄 下」『みすず』649、6-17 頁。

岡本信照 (オカモト シンショウ)

「ペドロ・シモン・アブリルの教育思想と俗語擁護論 ——フェリーペ 2 世宛書簡を中心として——」
『REHK』(京都イスパニア学研究会) 16、21-43 頁。

小澤実 (オザワ ミノル)

小澤実・中丸禎子・高橋美野梨編『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』(エリアスタディーズ 140、明石書店)。

小澤実・長縄宣博編『北西ユーラシアの歴史空間 前近代ロシアと周辺世界』(北海道大学出版会)

「まえがき」『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』、3-10 頁。

「第 12 章 アイスランドの歴史 3 世界とつながる孤島 16 世紀半ばから第二次世界大戦終結まで」
『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』、94-98 頁。

「コラム 5 アイスランド人の DNA 医療・倫理・人文学」『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』、144-146 頁。

「コラム 11 写本収集家アウルトニ・マグヌソン 写本というアイデンティティ」『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』、331-333 頁。

「序章 北西ユーラシアの歴史空間の射程」『北西ユーラシアの歴史空間』、1-15 頁。

「第 3 章 キェフ・ルーシ形成期における北西ユーラシア世界とスカンディナヴィア ルーン石碑の検討を中心に」『北西ユーラシアの歴史空間』、75-103 頁。

「1-5 バルト海世界の政治秩序」南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史:アジアから考える』(ミネルヴァ書房)、17-18 頁。

「特集:外国史家が読み解く『近代日本のヒストリオグラフィー』 序」『史苑』77 (1)、76-78 頁。

「公開シンポジウム「近代日本の偽史言説 その生成・機能・受容」」『立教大学日本学研究所年報』14・15、9-10 頁。

「中世のイベリア半島」『工芸青花』6、65-67 頁。

「高校世界史教科書と中世ヨーロッパ:時代区分・舞台設定・グローバルヒストリー」『じっきょう地歴・公民』82、1-8 頁。

[共訳] フィリップ・ドラランジェ (高橋理監訳) 『ハンザ 12-17 世紀』(みすず書房)。

[翻訳] ディディエ・カーン「中世・初期近代錬金術における変成と宗教」『史苑』76 (2)、155-164 頁。

[新刊紹介] 「Ann CHRISTYS, *Vikings in the South. Voyages to Iberia and the Mediterranean*. London: Bloomsbury 2015, xiv+134 p.」『西洋中世研究』8、255 頁。

[新刊紹介] 「Erin Michelle GOERES, *The Poetics of Commemoration. Skaldic Verse and Social Memory, c.890-1070*. Oxford: Oxford University Press 2015, xi+194 p.」『西洋中世研究』8、266 頁。

[新刊紹介] 「Judith JESCH, *The Viking Diaspora*. London: Routledge 2015, xiv+230 p.」『西洋中世研究』8、270-271 頁。

[新刊紹介] 「北村紗英ほか分担執筆 小澤実・中丸禎子・高橋美野梨編『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』明石書店、2016 年」Repre28(<http://repre.org/repre/vol28/books/02/13.php>)。

小澤雄太郎（オザワ ユウタロウ）

[新刊紹介] Rachel Stone and Charles West, Hincmar of Rheims: Life and Work, 『西洋中世研究』 8, 288 頁.

櫻田宗紀（オダ ソウキ）

[共訳] 「第一リヨン公会議（1245年）決議文翻訳」（藤崎衛監修）『クリオ』 30、100-127 頁.

[新刊紹介] Maria Pia Alberzoni & Pascal Montaubin (eds.), *Legati, delegati e l'impresa d'Oltremare (secoli XII-XIII)* [Ecclesia militans: histoire des hommes et des institutions de l'Eglise au Moyen Âge, 3], Turnhort, Brepols, 2014. 『西洋中世研究』 8、244 頁.

[参加記] 「2015年度若手セミナー報告① 外国語で論文を書く、報告する」『西洋中世研究』 8、302 頁.

梶原洋一（カジワラ ヨウイチ）

Université et éducation dans l'ordre dominicain à la fin du Moyen Âge: Le collège de Notre-Dame de la Pitié d'Avignon. *Annales du Midi* t. 128 n. 294, pp. 247-267.

[翻訳] ヴァレリ・トゥレイユ「恐怖の叫びと嫌悪の叫び——盗人に向けられる「アロ」中世末期フランスにおける叫びと犯罪——」『思想』 1111、27-41 頁.

加藤玄（カトウ マコト）

『わかる・身につく歴史学の学び方』（大学の歴史教育を考える会との共編、大月書店）.

Introduction. Petite histoire des historiens et des recherches historiques méridionales du Moyen Âge au Japon. (Tadao Inde との共著) *Annales du Midi: Regards japonais sur le Midi médiéval* 128 (294), pp.161-164.

Note sur la seconde moitié de la carrière de Jean de Grailly: de Saint-Jean d'Acre au Comtat (1289-1297). *Annales du Midi: Regards japonais sur le Midi médiéval* 128 (294), pp. 281-287.

[新刊紹介] Gilli, Patrick et Enrica Salvatori (éds), *Les identités urbaines au Moyen Âge. Regards sur les villes du Midi français, Studies in European Urban History (1100-1800)* 32, Turnhout, 2014. 『都市史研究』 3、149 頁.

加藤磨珠枝（カトウ マスエ）

『西洋美術の歴史（2）中世Ⅰ キリスト教美術の誕生とビザンティン世界』（益田朋幸との共著、中央公論新社）.

「最古の黙示録イメージを求めて—ローマ教会堂装飾の伝統」田中久美子編『ヨーロッパ中世美術論集（2）黙示録の美術』（竹林舎）、47-74 頁.

[書評] 「水野千依『キリストの顔—イメージ人類学序説』」『日本の神学』 55、189-194 頁.

[新刊紹介] 「自著を語る 78 加藤磨珠枝編『ヨーロッパ中世美術論集（1）教皇庁と美術』」『地中海学会月報』 389、7 頁.

鴨野洋一郎（カモノ ヨウイチロウ）

「フィレンツェ・オスマン貿易における駐在員——オスマン貿易商ジョヴァンニ・マリンギの書簡から——」『経済経営研究所年報』（関東学院大学経済経営研究所） 38、51-63 頁.

「15世紀フィレンツェの赤色染料輸入——カンビーニ商会の備忘録から——」『経済系』（関東学院大学経済学会） 267、1-15 頁.

[書評] 「斯波照雄・玉木俊明編『北海・バルト海の商業世界』」『史苑』 77（1）、155-163 頁.

河野雄一（カワノ ユウイチ）

「ブルゴーニュ公国とエラスムスの君主論——中近世における「君主の鑑」——」藤井美男編・ブルゴーニュ公国史研究会著『ブルゴーニュ国家の形成と変容——権力・制度・文化——』（九州大学出版会）、337-366 頁。

菊地重仁（キクチ シゲト）

『名著で読む世界史 120』（池田嘉郎／上野慎也／村上衛／森本一夫編、山川出版社。執筆担当範囲：『ローランの歌』、165-167 頁）。

「カロリング期の政治的コミュニケーションにおける書簡の機能について（2016 年度歴史学研究会大会〈合同部会〉「3-8 世紀における地中海世界を中心とした政治的コミュニケーションの断絶と継受」）」『歴史学研究』950、155-164 頁。

「近代日本における／にとってのヨーロッパ中世研究：ドイツ歴史学界との関わりから（特集：外国史家が読み解く『近代日本のヒストリオグラフィー』）」『史苑』77-1、83-95 頁。

[新刊紹介]「Osamu Kano et Jean-Loup Lemaître (eds.), *Entre texte et histoire: études d'histoire médiévale offertes au professeur Shoichi Sato* [De l'archéologie à l'histoire], Paris, De Boccard, 2015」『西洋中世研究』8、271 頁。

北館佳史（キタダテ ヨシフミ）

「13 世紀シトー会の書簡コミュニケーション」『西洋中世研究』8、139-155 頁。

城戸毅（キド タケシ）

[書評]「鶴島博和『バイユーの綴織を読む——中世のイングランドと環海峡世界——』」『史学雑誌』125-12、55-60 頁。

久木田直江（クキタ ナオエ）

「イギリス中世末の教会改革とハッケボーンのマヒティルドの霊性」甚野尚志・益田朋幸編『ヨーロッパ文化の再生と革新』（知泉書館）、173-196 頁。

草生久嗣（クサブ ヒサツグ）

Heresiological Labeling in Ecumenical Networking from the Ninth to Thirteenth Centuries : The Byzantine Oikoumene Reconsidered. *Asian Review of World Histories* 4 (2), pp.207-229.

「ロシアービザンツ緩衝地帯の蛮族観について——二世紀ビザンツ史書におけるペチェネグを題材に——」小澤実・長縄宣博編『北西ユーラシアの歴史空間—前近代ロシアと周辺世界』（北海道大学出版会）、105-131 頁。

[書評]「中谷功治『テマ反乱とビザンツ帝国』」『図書新聞』3272 号。

久米順子（クメ ジュンコ）

Reconsideraciones del arte medieval español durante el siglo XX: lo «mozárabe» y lo «mudéjar», M. Cabañas Bravo, W. Rincón García (eds), *El arte y la recuperación del pasado reciente*, Madrid, pp. 123-132.

「西ゴート王国（1）アリウス派時代」「西ゴート王国（2）カトリック時代」立石博高、内村俊太編著『スペイン史を知るための50章』明石書店、33-44 頁。

[研究動向] 「中南米の西洋中世学」『西洋中世研究』第8号、229-242頁。

[インタビュー] “Historia y Memoria”, con G. Rodríguez y M. Zapatero, Scriptorium (Pontificia Universidad Católica Argentina), 10, pp. 36-40.

桑原夏子 (クワバラ ナツコ)

Giovanni da Capestrano: Iconografia di un predicatore osservante dalle origini alla canonizzazione (1456-1690) (Luca Pezzuto 著、分担執筆)、200-201頁。

Gli affreschi della fine del Duecento in Santa Maria Rossa di Crescenzago: gli ultimi giorni della Vergine e un’insolita scena di esequie nel presbiterio. *Contesti d’Arte*. 1 (1), pp.36-51.

「モンツァ大聖堂付属美術館所蔵祭壇用衝立《聖母伝》図像研究—14世紀後半から15世紀前半のウンブリア地方における聖母晩年伝作例との比較から」『早稲田大学イタリア研究所研究紀要』5、1-21頁。

「トリエステ近郊ムッジャ・ヴェッキアの聖母晩年伝壁画—イタリアにおける聖母晩年伝図像生成初期の様相の再検討と終末思想との関わり」『西洋中世研究』8、118-138頁。

[新刊紹介] 「Luca Pezzuto, Giovanni da Capestrano: Iconografia di un predicatore osservante dalle origini alla canonizzazione (1456-1690) ルカ・ペッツート著『ジョヴァンニ・ダ・カペストラノーフランチェスコ会厳修派説教師の列聖にいたるまでの図像変遷 (1456-1690年)』」『美学』249 (67-2)、108頁。

児嶋由枝 (コジマ ヨシエ)

Il porto di Genova e le sculture antelamiche di Fidenza: riconsiderazione della questione provenzale, *Hortus Artium Medievalium. Journal of the International Research Center for Late Antiquity and Middle Ages*, XXII, pp. 579-589.

「神聖ローマ皇帝フェデリーコ2世のカプア門彫刻—ルネサンスの曙光」甚野尚志・益田朋幸編『ヨーロッパ文化の再生と革新』(知泉書館)、267-289頁。

「イタリア・ルネサンス美術—都市国家の芸術家たち」藤内哲也編『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』(ミネルヴァ書房)、214-235頁。

小林亜沙美 (コバヤシ アサミ)

[書評] Tanja Broser / Andreas Fischer / Matthias Thumser (Hg.), *Kuriale Briefkultur im späteren Mittelalter. Gestaltung – Überlieferung – Rezeption (Forschungen zur Kaiser und Papstgeschichte des Mittelalters. Beihefte zu J. F. Böhmer, Regesta Imperii, 37)*, Köln / Weimar / Wien (Böhlau) 2015, *Francia-Recensio* 2015/4, *Mittelalter – Moyen Âge (500-1500)* http://www.perspectivia.net/publikationen/francia/francia-recensio/2015-4/ma/broser_kobayashi.

[書評] Vasil Bivolarov, *Inquisitoren-Handbücher. Papsturkunden und juristische Gutachten aus dem 13. Jahrhundert mit Edition des Consilium von Guido Fulcodii. Monumenta Germaniae Historica, (Studien und Texte, 56)*, Wiesbaden (Harrassowitz Verlag) 2014, *Mediaevistik* 28 (2015), pp. 555-559.

小林繁子 (コバヤシ シゲコ)

「巡礼に赴く人々—教会と国家、民衆」、「ウェストファリア条約—「帝国の死亡証明書」、「三十年戦争—戦争の世紀のハイライト」、「コラム：魔女裁判」森井裕一編『ドイツの歴史を知るための50章』(明石書店)。

「魔女研究の新潮流—近世ドイツ史を中心に」『法制史研究』65、113-138頁。

[書評]「B.エーレンライク/D.イングリッシュ著『魔女・産婆・看護婦—女性医療家の歴史』」『図書新聞』3241、5頁。

小宮真樹子 (コミヤ マキコ)

「クエスティング・ビーストの探求——トマス・マロリーの不思議な動物」東雅夫・下楠昌哉編『幻想と怪奇の英文学2』(春風社)、160-81頁。

「乳兄弟と兄弟愛：トマス・マロリーの『アーサー王の死』におけるケイの描写」中央大学人文科学研究部編『アーサー王物語研究』(中央大学出版部)、83-108頁。

坂本邦暢 (サカモト クニノブ)

Julius Caesar Scaliger, Renaissance Reformer of Aristotelianism: A Study of His Exoteric Exercises. Leiden: Brill, 2016. pp. viii+213.

「愛は世界を動かす：前近代宇宙論における神、知性、天球」『史苑』76、165-182頁。

[共訳]スティーヴン・シェイピン、サイモン・シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ：ホップズ、ボイル、実験的生活』(柴田和宏と共訳、吉本秀之監訳、名古屋大学出版会)。

[新刊紹介]Yuichi Akae, *A Mendicant Sermon Collection from Composition to Reception: The Novum opus dominicale of John Waldeby*, *OESA*『西洋中世研究』6、243-244頁。

櫻井康人 (サクライ ヤスト)

「1551～1570年の聖地巡礼記に見るイスラーム観・ムスリム観・十字軍観——後期十字軍再考(8)——」『ヨーロッパ文化史研究』17、53-83頁。

[翻訳]ロドニー・スターク『十字軍とイスラーム世界—神の名のもとに戦った人々—』(新教出版社)。

[書評]「高山博『中世シチリア王国の研究—異文化が交差する地中海世界—』」『西洋史学』259、239-241頁。

佐々木徹 (ササキ トオル)

「聖トマス・アクィナス『神学大全』の聖書論」『茨城キリスト教大学紀要』(茨城キリスト教大学) 50、61-76頁。

佐藤彰一 (サトウ ショウイチ)

『贖罪のヨーロッパ—中世修道院の祈りと書物』中公新書 2049、中央公論新社。

[書評-新刊紹介] 菊地重仁「中心と周縁を結ぶ—カロリング朝フランク王国における命令伝達・執行の諸相について」『西洋史研究』新編 43『法制史研究』65、325-327頁。

菊地重仁「複合国家としてのフランク帝国における「改革」の試み—カール大帝皇帝戴冠直後の状況を中心—」『西洋中世研究』6『法制史研究』65、327-329頁。

Peter BROWN, *The Ransom of the Soul. Afterlife and Wealth in Early Western Christianity*, 『西洋中世研究』8、250-251頁。

Philippe BUC, *Holy War, Martyrdom, and Terror. Christianity, Violence, and the West, ca. 70C.E to the Iraq War*. 『西洋中世研究』8、251-252頁。

François-Xavier FAUVELLE, *Le rhinoceros d'or. Histoire du Moyen Âge africain*. 『西洋中世研究』8、260-261頁。

Yaniv FOX, *Power and Religion in Merovingian Gaul. Columbanian Monasticism and the Frankish Elite* 『西洋中世研究』8、264-265頁。

Yumi NARASAWA, *Les autels chrétiens du Sud de la Gaule (Ve-XIIIe siècles)*. 『西洋中世研究』 8、278-279 頁。
Henning TRÜPPER, *Topography of a Method. François Louis Ganshof and the Writing of History*. 『西洋中世研究』 8、288-291 頁。

佐藤公美 (サトウ ヒトミ)

『アルプスからのインターローカル・ヒストリー—<地域>から<間地域>へ—』(編著、佐藤公美研究室 [執筆部分]「序論 アルプスからのインターローカル・ヒストリー—<地域>から<間地域>へ—」1-6 頁; Introduction: Interlocal History from the Alps. From the "Local" to the "Interlocal", pp. 7-12).

「第二章 都市コムーネから領域国家へ——中世後期～盛期」藤内哲也編著『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』(ミネルヴァ書房) 39-68 頁

「中世ティロル貴族の分裂と同盟——「鷹同盟」を中心に——」『甲南大學紀要 文学編』166、169-178 頁。

「地域を超える「争い」と「平和」——中世後期アルプスとイタリア半島における「^{インターローカルティ}間地域性」——」

『洛北史学』18、1-25 頁。

[翻訳]マッシモ・デッラ・ミゼリコルディア「アルプス国境沿いの「間地域的」関係—15 世紀のミラノ、スイス、ヴァリス、そしてグラウビュンデン—」佐藤公美編『アルプスからのインターローカル・ヒストリー—<地域>から<間地域>へ—』(佐藤公美研究室) 13-27 頁。

同「15 世紀アルプスにおける境界地域の「間地域」関係文化」同書、111-125 頁。

[書評]「池上俊一『公共善の彼方に——後期中世シエナの社会』」『法制史研究』 65、277-282 頁。

佐野大起 (サノ ダイキ)

[共訳]「第一リヨン公会議 (1245 年) 決議文翻訳」(藤崎衛監修)『クリオ』30、100-127 頁。

[新刊紹介]「Dimitar ANGELOV & Michael SAXBY (eds.), *Power and Subversion in Byzantium: Papers from the 43rd Spring Symposium of Byzantine Studies, Birmingham, March 2010.*」『西洋中世研究』8、246-247 頁。

[新刊紹介]「Ioannis D. POLEMIS (ed.), *Θεόδωρος Μετοχίτης, Βυζάντιος ἢ περὶ τῆς βασιλίδος μεγαλοπόλεως. Κοσμολογία καὶ ῥητορικὴ κατὰ τὸν ΙΔ' αἰῶνα.*」『西洋中世研究』8、284-285 頁。

[報告批判]「2016 年度歴史学研究会大会報告批判 (合同部会、南雲報告批判)」『歴史学研究』952、61-63 頁。

澤井繫男 (サワイ シゲオ)

[翻訳]トンマーズ・カンパネッラ著『哲学詩集』第 1 回(関西大学『文學論集』66(1)、7 月、1-20 頁、全篇 89 編のうち 1(序) から 8 まで)。

トンマーズ・カンパネッラ著『哲学詩集』第 2 回(関西大学『文學論集』66(2)、9 月、1-22 頁、全篇 89 編のうち 9-22 まで)。

[エッセイ]「ミニッツペーパーの効用」『UP』7 月号、東京大学出版会、33-36 頁。

「文化的経済か、あるいは、経済的文化か」(地中海学会月報 392、7 月号)。

[解説]モンタネッリ/ジェルヴァーズ共著 (藤沢道郎訳)『ルネサンスの歴史・上下』(改訂版・中公文庫) 上巻: 345-351 頁。下巻: 469-475 頁。

[小説]『復帰の日』(作品社)。

斯波照雄 (シバ テルオ)

「【ピーター・クラーク教授 講演会／セミナー】コメント」『比較都市史研究』35(1).
「中世バルト海域における塩のぼうえきについて」『武蔵野大学法学』5.

柴田隆功（シバタ タカノリ）

[共訳]「第一リヨン公会議（1245年）決議文翻訳」（藤崎衛監修）『クリオ』30、100-127頁.

[報告批判]「2016年度歴史学研究会大会 報告批判（合同部会、亀谷報告批判）」『歴史学研究』952
64-65頁.

[新刊紹介]「Hartmut HOFFMANN, Schreibschulen und Buchmalerei Handschriften und Texte des
9.-11. Jahrhunderts [Monumenta Germaniae Historica. Schriften, 65], Hannover, Hahnsche
Buchhandlung, 2012, xxix und 234p., €55.00.」『西洋中世研究』8、268頁.

[新刊紹介]「Henry PARKES, The Making of Liturgy in the Ottonian Church: Books, Music and
Ritual in Mainz, 950-1050 [Cambridge Studies in Medieval Life and Thought Fourth Series, 100],
Cambridge, Cambridge University Press, 2015, xv + 259 p., \$ 99.00.」『西洋中世研究』8、282-28頁.

小路邦子（ショウジ クニコ）

「スコットランド抵抗の象徴 モードレッド」『アーサー王物語研究 源流から現代まで』（分担執筆、
中央大学出版部）、109-143頁.

須網美由紀（スアミ ミユキ）

[共著・共訳]「アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」（国立新美術館・国立国
際美術館）.

杉山美耶子（スギヤマ ミヤコ）

An image for 'all truly penitent': reconsidering the function of the Madonna of Jan Vos by Jan van
Eyck and his workshop. *The Medieval Low Countries* 3, pp. 97-121.

[新刊紹介]Douglas Brine, Pious Memories: The Wall-Mounted Memorial in the Burgundian
Netherlands [Studies in Netherlandish Art and Cultural History. 13] 『西洋中世研究』8、252頁.

図師宣忠（ズシ ノブタダ）

「読書案内：西欧中世におけるキリスト教の異端」『歴史と地理』694（世界史の研究247）、43-46頁.

「回顧と展望：ヨーロッパ（中世—一般）」『史学雑誌：2015年の歴史学界—回顧と展望—』125(5)、
319-320頁.

「回顧と展望：ヨーロッパ（中世—西欧・南欧）」『史学雑誌：2015年の歴史学界—回顧と展望—』125(5)、
320-325頁.

À propos de l'utilisation des registres d'inquisition de Toulouse au XIIIe siècle, *Annales du Midi:
revue de la France méridionale* 294, pp. 269-279.

関哲行（セキ テツユキ）

「第2次アルプハーラス反乱—レコンキスタ運動はいつ終焉したのか」神崎忠昭編『断絶と新生』（慶
応義塾大学出版会）、209-231頁.

『忘れられたマイノリティー—迫害と共生のヨーロッパ史』（踊共二との共著、山川出版社）.

「中世スペインにおける宗教的マイノリティーの『不在』—終末論、メシア思想を含めて—」『歴史
学研究』946、33-43頁.

瀬戸直彦（セト ナオヒコ）

「卷子本からコーデクスへ—写本欄外挿画が語るもの」『Etudes Françaises —早稲田フランス語フランス文学論集』23、80-94頁。

瀬谷幸男（セヤ ユキオ）

〔翻訳〕『アーサーの甥ガウェインの成長記—中世ラテン騎士物語』（論創社）。

〔共訳〕『完訳 中世イタリア民間説話集』（論創社）。

苑田亜矢（ソノダ アヤ）

「2016年学界回顧：西洋法制史（英米）」『法律時報』88-13、239-240頁。

「ノルマン征服から13世紀初めまでのアングロ・サクソン諸法集—手書本の伝来状況に着目して—」『法政研究』83(3)、659-696頁。

高名康文（タカナ ヤスフミ）

「リュトブフの仮構された「私」によるパリ」『仏語仏文学研究』（東京大学仏語仏文学研究会）49、23-37頁。

「ルナールと托鉢修道会—リュトブフ、『ルナールの戴冠』、『新版ルナール』」『西洋中世研究』8、174-193頁。

高野禎子（タカノ ヨシコ）

「薔薇窓の《黙示録》—シャルトル大聖堂の南薔薇窓を中心に—」田中久美子編『ヨーロッパ中世美術論集2 黙示録の美術』（竹林舎）、319-348頁。

「覚書・パリ、サント・シャペルの薔薇窓」『清泉女子大学キリスト教文化研究所年報』（清泉女子大学キリスト教文化研究所）24、31-69頁。

高橋優（タカハシ ユウ）

〔共訳〕「第一リヨン公会議（1245年）決議文翻訳」（藤崎衛監修）『クリオ』30、100-127頁。

〔報告批判〕「2016年度歴史学研究会大会報告批判（合同部会、菊地報告批判）」『歴史学研究』952、63-64頁。

高山博（タカヤマ ヒロシ）

Quei Maledetti Normanni. Studi offerti a Errico Cuzzo per i suoi settant'anni da colleghi, alievi, amici, 2 vols. (共著、Ariano Irpino, Centro Europeo di Studi Normanni), pp. 1151-1165, "L'amministrazione di Ruggero I, fondamento del sistema amministrativo normanno."

瀧本佳容子（タキモト カヨコ）

「フアン2世治世下（1406-54）におけるカスティージャ語の理論化」『慶應義塾大学日吉紀要 人文科学』31、103-123頁。

田口正樹（タグチ マサキ）

「法と秩序—多様性と複層性」森井裕一編著『ドイツの歴史を知るための50章』（明石書店）、40-45

頁.

「中世後期ドイツの貴族団体」『北大法学論集』66 (6)、1-33 頁.

「中世後期ドイツの国王宮廷における非訟事件」『北大法学論集』66 (5)、1-22 頁.

[書評] 藤井真生『中世チェコ国家の誕生—君主・貴族・共同体』『法制史研究』65、273-277 頁.

[新刊紹介] Peter OESTMANN, *Wege zur Rechtsgeschichte: Gerichtsbarkeit und Verfahren*, (UTB 4295), 2015、『西洋中世研究』8、280-281 頁.

[新刊紹介] Claudia ZEY (Unter Mitarbeit von Sophie CAFLISCH und Philippe GORIDIS) (ed.), *Mächtige Frauen? Königinnen und Fürstinnen im europäischen Mittelalter (11. - 14. Jahrhundert)* (Vorträge und Forschungen, Bd. 81), 2015、『西洋中世研究』8、293 頁.

竹中徹 (タケナカ トオル)

「フランス王権とニコポリスの敗戦 — 『嘆きと慰めの書簡』の分析から — 」

『パブリック・ヒストリー』(大阪大学西洋史学研究室) 13、17-32 頁.

田島篤史 (タジマ アツシ)

「人が魔女になる?—『魔女への鉄槌』にみる「契約」」『宗教研究』(日本宗教学会) 89 (別冊)、252-253 頁.

[共訳] 「イェルク・ヴィクラム『少年の鑑』(1554 年) (3)」『独逸文学』(関西大学独逸文学会) 60、101-114 頁.

多田哲 (タダ サトシ)

「カロリング・ルネサンス」甚野尚志、益田朋幸編『ヨーロッパ文化の再生と革新』(知泉書館)、5-21 頁.

[書評] 「津田拓郎「カロリング期の統治行為における文書利用—シャルルマーニュ期は「カピトゥラリアの最盛期」だったのか—」『史学雑誌』123-2.

「西フランク王国の統治行為における文書利用—いわゆる「カピトゥラリア」を中心に—」(『エクフラシス ヨーロッパ文化研究』4)『法制史研究』65、329-332 頁.

田辺加恵 (タナベ カエ)

『マタモロス聖ヤコブ』像の形成とその戦略的利用』『スペイン史研究』(スペイン史学会) 30、18-30 頁.

田辺清 (タナベ キヨシ)

「レオナルド・ダ・ヴィンチ〈聖母像〉の展開—《糸巻きの聖母》を中心に」『日伊国交樹立 150 周年記念特別展レオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の挑戦』図録 100-103 頁 毎日新聞社、NHK、NHK プロモーション 2016.1.16-4.10(於:江戸東京博物館 学術協力者として参加).

田辺めぐみ (タナベ メグミ)

「学際研究としての写本学—人文科学研究・教育の未来にむけて—」『鹿島美術研究』年報 33(別冊)、518-522 頁.

千葉敏之 (チバ トシユキ)

「歴史理論」『史学雑誌』125(5)、6-10 頁.

「神聖ローマ帝国と世界」『新しく学ぶ西洋の歴史』ミネルヴァ書房、11-12 頁。

津田拓郎（ツダ タクロウ）

〔共訳〕ロバート・ルイス・ウィルケン『キリスト教一千年史：地域とテーマで読む』（白水社）
「794 年フランクフルト集会で生まれた一文書に関する『史料の歴史』とシャルルマーニュ時代の統治
行為における文書利用」『歴史学研究』（歴史学研究会）952、25-36 頁。

「世界史履修に関する短大生の意識調査」『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』（岩手県立大学盛岡
短期大学部）18、59-64 頁（吉原秋、小川春美、鈴木道也、安井もゆる、小川知幸、畑奈保美と共同執筆）。

「大学における世界史教育の現状と課題(1)——世界史学習に関する大学生たちの意識調査——」『岩手
県立大学盛岡短期大学部研究論集』（岩手県立大学盛岡短期大学部）18、65-71 頁（鈴木道也、吉原秋、
小川春美、安井もゆる、小川知幸、畑奈保美と共同執筆）。

「トゥール・ポワティエ間の戦いの『神話化』と 8 世紀フランク王国における対外認識」『西洋史学』（日
本西洋史学会）261、1-20 頁。

寺田龍男（テラダ タツオ）

「ディートリヒ叙事詩の語り出し——『ディートリヒの敗走』の構造考察のために——」『メディア・
コミュニケーション研究』（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院）69、99-116 頁。

「『ディートリヒの敗走』からハインリヒ・フォン・ミュンヘンの『世界年代記』へ——主人公の「祖
先の系譜」について——」『独語独文学研究年報』（北海道大学ドイツ語学・文学研究会）42、1-23 頁。

「多文化理解論の実践——東西後朝考——」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』（北海道大学大学院
教育学研究院）127、1-8 頁。

藤内哲也（トウナイ テツヤ）

『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』（編著、ミネルヴァ書房）。

「(コラム) 都市と商人」南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史——アジアか
ら考える』（ミネルヴァ書房）。

〔書評〕「「ゲットー」の謎に挑む アリス・ベッケル＝ホー著、木下誠訳『ヴェネツィア、最初のゲッ
トー』（『図書新聞』3266 号）。

〔紹介〕「自著を語る 82 『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』」『地中海学会月報』394、7 頁。

中川久嗣（ナカガワ ヒサシ）

「ロバート・ルイス・スティーヴンソンの旅行記『旅はロバをつれて』と南仏ジェヴォーダン」『文明
研究』（東海大学文明学会）34、1-20 頁。

「南フランス・ロゼール県北部の中世ロマネスク聖堂 (2)」『東海大学紀要 文学部』104、83-116 頁。

「南フランス・ロゼール県中部の中世ロマネスク聖堂 (1)」『東海大学紀要 文学部』105、95-123 頁。

中谷功治（ナカタニ コウジ）

『テマ反乱とビザンツ帝国 コンスタンティノーブル政権と地方軍団』（大阪大学出版会）。

「ふたりの叛徒トマス—9 世紀ビザンツの大反乱をめぐって—」『人文論究』66(3)、1-23 頁。

中西恭子（ナカニシ キョウコ）

『ユリアヌスの信仰世界』（慶應義塾大学出版会）。

「叙景と引証とわたし、ある古代末期文学紹介の試み」『現代詩手帖』2016年9月号、特集「古典詩への誘い」、思潮社、56-59頁。

「『ユリアヌスの信仰世界 万華鏡のなかの哲人皇帝』によせて」慶應義塾大学出版会ウェブサイト <http://www.keio-up.co.jp/kup/gift/julianus.html>.

「夢みるひとの物語、醒めたるものの物語 ファンタジーと「宗教的なもの」についての試論」『ユリイカ』2016年12月号、特集「『ファンタスティック・ビースト』と『ハリー・ポッター』の世界」、青土社、189-195頁。※ファンタジー文学とメディアヴァリズム表象の機能をめぐる論考

【書評・新刊紹介】

「書評会：ハンス・ゲオルグ・ベック、戸田聡訳『ビザンツ世界論』（知泉書館、2014年）」『エイコーン』46、19-31頁。

中谷惣（ナカヤ ソウ）

『訴える人びと—イタリア中世都市の司法と政治』（名古屋大学出版会）。

「イタリアの都市社会」藤内哲也編『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』（ミネルヴァ書房）、188-211頁。

Organization and Use of Archival Records in Medieval Lucca and Bologna. *Journal of Western Medieval History* 38, pp. 95-119.

奈良澤由美（ナラサワ ユミ）

À propos des aménagements liturgiques de l'Antiquité tardive et du haut Moyen Age en Provence. *Annales du Midi*, no. 294, 2016, pp. 167-178.

西村善矢（ニシムラ ヨシヤ）

「第1章 ローマの遺産—古代末期～中世初期」藤内哲也編著『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』（ミネルヴァ書房）、12-38頁。

橋爪烈（ハシヅメ レツ）

『ブワイフ朝の政権構造—イスラーム王朝の支配の正当性と権力基盤』（慶應義塾大学出版会）。

「「正統カリフ」概念の淵源としてのタフディール—スナ派政治思想の発生—」『世界史の研究』248、1-15頁

【学界動向】「2015年の歴史学界—回顧と展望—イスラーム時代」『史学雑誌』125(5)、296-301頁

【新刊紹介】「Robert G. Hoyland, *In God's Path: The Arab Conquests and the Creation of an Islamic Empire*」『西洋中世研究』8、269頁。

花房秀一（ハナフサ シュウイチ）

「ルイ10世治世下におけるノルマンディ憲章発布と地方主義」『中央学院大学法学論叢—法学部創設30周年記念号—』29(2)、263-279頁。

濱西雅子（ハマニシ マサコ）

「初期中世の黙示録写本〈天上のエルサレム〉諸場面に見る黙示録挿絵サイクルの生成と発展」田中久美子編『黙示録の美術（ヨーロッパ中世美術論集2）』（竹林舎）、75-97頁。

【翻訳】ペーター・K・クライン「十世紀におけるベアトゥス写本挿絵の革新」田中久美子編『黙示録の美術（ヨーロッパ中世美術論集2）』（竹林舎）、125-147頁。

濱野敦史（ハマノ アツシ）

「家内使用人をめぐる言説—14 - 15 世紀フィレンツェの事例」『國學院雑誌』117 (2)、1-13 頁。

原田晶子（ハラダ アキコ）

「宗教改革導入にともなう死者追悼儀礼廃止に対する請願——カトリック共同体からプロテスタント共同体への移行の狭間で——」神崎忠昭編『断絶と新生：中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』（慶応大学出版会）、185-205 頁。

「中世の都市」森井裕一編『ドイツの歴史を知るための 50 章』（明石書店）、106-111 頁。

「コラム 都市の空気は自由にする」森井裕一編『ドイツの歴史を知るための 50 章』（明石書店）112-114 頁。

平野智洋（ヒラノ トモヒロ）

「後期ビザンツ帝国に於けるポルフィロゲニトス称号——コンスタンディノス・パレオロゴス(13 世紀後半)の経歴に関する考察——」『西洋史学』257、21-39 頁。

[史料翻訳・註解]「ゲオルギオス・スフランツィス『回顧録(小年代記)』翻訳解説 (I)」『東海史学』50、99-117 頁。

藤井真生（フジイ マサオ）

「カレル 4 世の『国王戴冠式次第』にみる伝統と国王理念の変容」神崎忠昭編『断絶と新生——中近世ヨーロッパとイスラームにおける信仰・思想・統治』（慶応義塾大学出版会）、137-160 頁。

[史料紹介]「史料紹介と教材化：『ザクセンシュピーゲル』の図像読解と世界史教材化の試み」『静岡大学人文論集』66(2)、35-63 頁。

[史料紹介]「史料紹介と教材化：『ザクセンシュピーゲル』の図像読解と世界史教材化の試み 2」『静岡大学人文論集』67(1)、41-64 頁

藤崎衛（フジサキ マモル）

『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』（藤内哲也編、共著、「第 6 章 ローマ教皇とカトリック教会」および「歴史の扉 6 聖年の誕生」を担当、ミネルヴァ書房）。

『名著で読む世界史 120』（池田嘉郎、上野慎也、村上衛、森本一夫編、共著、「スコラ学の大成者『神学大全』トマス・アキナス」、「イタリア語」の父『神曲』ダンテ」、「ルネサンスを告げる物語文学の傑作『デカメロン』ボッカチオ」および「近代政治学の祖『君主論』マキアヴェリ」を担当、山川出版社）。

「世界史 Q&A 十分の一税について教えてください。」『歴史と地理』961（世界史の研究 246）、46-48 頁。

「パリ、中世美術館に並ぶ王たちの頭部」『ニューサポート 高校社会』（東京書籍）26、2 頁。

[監訳]「第一リヨン公会議（1245 年）決議文翻訳」『クリオ』30、100-127 頁。

[書評]「高山博『中世シチリア王国の研究——異文化が交差する地中海世界』」『地中海学研究』39、79-83 頁。

星野倫（ホシノ ヒトシ）

「ダンテ『帝政論』研究序説——成立年代決定問題をめぐって——」『早稲田大学イタリア研究所研究紀要』5、57-85 頁。

「«Sicut in Paradiso *Comedie iam dixi*» (*Mon.* I, xii, 6) ——ダンテ『帝政論』年代決定のための外的

証拠をめぐって——』『イタリア学会誌』66、53-76頁。

堀越宏一（ホリコシ コウイチ）

Les légumes dans les cuisines française et méditerranéenne au Moyen Age et à la Renaissance, in *Archives and Records of the Medieval Europe, The 9th Korean-Japanese Symposium on Medieval History of Europe, 2 May-3 May 2016, Seoul, Korea*, pp.191-203.

松根伸治（マツネ シンジ）

「ガンのヘンリクスと *propositio magistralis*—意志の悪と理性の誤り」『中世思想研究』（中世哲学会）58、31-46頁。

[翻訳]トマス・アクィナス『悪について』第9問・虚栄『アカデミア』人文・自然科学編（南山大学）12、261-277頁。

松本涼（マツモト サヤカ）

『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための65章』（分担執筆、明石書店）。

松本典昭（マツモト ノリアキ）

「マニエリスム期におけるメディチ家の宝物コレクション」『阪南論集 人文・自然科学編』51(2)、15-30頁。

「ルネサンス期におけるメディチ家の宝物コレクション」『阪南論集 社会科学編』51(3)、311-326頁。

「バロック期におけるメディチ家の宝物コレクション」『阪南論集 人文・自然科学編』52(1)、53-73頁。

三佐川亮宏（ミサガワ アキヒロ）

『ドイツ — その起源と前史』（創文社）

「ドイツ民族成立以前の前史 — 民族移動からヴェルダン条約まで」, 「中世ローマ帝国とドイツ人 — 「帝国」と「王国」の狭間で」森井裕一編『ドイツの歴史を知るための50章』（明石書店）、74-78頁、79-84頁。

[新刊紹介] Tina Bode, *König und Bischof in ottonischer Zeit. Herrschaftspraxis - Handlungsspielräume - Interaktionen*, 『西洋中世学』8、248-249頁。

向井伸哉（ムカイ シンヤ）

“Une communauté villageoise face à l'insécurité : la défense de Sérignan (Hérault) dans la deuxième moitié du XIVe siècle”, *Annales du Midi*, CXXVIII, 2016, p. 219-245.

「朝河貫一とマルク・ブロックの往復書簡——戦間期における二人の比較史家——」, 『史苑』, 76-2, 2016年, 225-276頁。（斎藤史朗、佐藤雄基との共著）。

村上寛（ムラカミ ヒロシ）

『『単純な魂の鏡』における三つの死と三つの生』甚野尚志、益田朋幸編『ヨーロッパ文化の再生と革新』（知泉書館）、133-153頁。

村田光司（ムラタ コウジ）

Cartulary and Archive of the Lembiotissa Monastery near Smyrna: Some Preliminary Remarks.

Journal of Western Medieval History (Korean Society for Western Medieval History) 38, pp. 37-67.
[新刊紹介]「Maria Nystazopoulou-Pelekidou, *Byzantine diplomatike: Ta engrafa ton demosion leitourgon*, Thessaloniki, Ekdoseis Baniias, 2014」『西洋中世研究』8、279-280頁。

本橋瞳 (モトハシ ヒトミ)

「七秘蹟図像における血：ロヒール・ファン・デル・ウェイデン作《七秘蹟祭壇画》を中心に」『キリスト教学』、立教大学キリスト教学会、57、125-41頁。

「ロヒール・ファン・デル・ウェイデン作《七秘蹟祭壇画》と《七秘蹟タペストリー》による礼拝堂展示プログラムに関する研究」『年報 鹿島美術研究』（鹿島美術財団）「美術に関する調査研究の女性」；2015年度助成、33、111-122頁。

森本光 (モリモト ヒカル)

[共訳]「第一リヨン公会議（1245年）決議文翻訳」（藤崎衛監修）『クリオ』30、100-127頁。

山辺規子 (ヤマベ ノリコ)

「図像にみる1530年ボローニャにおける皇帝カール5世の戴冠式パレード」『日伊文化研究』54、23-35頁。

横山安由美 (ヨコヤマ アユミ)

「王の擬制的身体と円卓（王の歴史）からの離昇としての聖杯物語」『仏語仏文学研究』（東京大学仏語仏文学研究会）49、7-22頁。

「マリ・ド・フランスの『レー』にみる英仏の二重性——コンタクト・ゾーンとしてのイングランド——」『国際交流研究』（フェリス女学院大学国際交流学部）、25-57頁。

吉川文 (ヨシカワ アヤ)

[新刊紹介] Anna Zayaruznaya, *The Monstrous New Art: Divided Forms in the Late Medieval Motet*. 『西洋中世研究』8、292頁。

頼順子 (ライ ジュンコ)

「14世紀アンジュー貴族の狩猟を通じた人的紐帯 アルドゥアン・ド・フォンテーヌ＝ゲラン『狩猟宝典』を例に」『パブリック・ヒストリー』（大阪大学西洋史学会）13、52-64頁。

和栗珠里 (ワグリ ジュリ)

Confraternity and Nobility in the Sixteenth Century Venice — Patrician Members of the Scuola Grande della Misericordia —. 『人間文化研究』5、1-27頁。

渡部武士 (ワタナベ タケシ)

「西欧中世における説教師の理念——ジャック・ド・ヴィトリ(1160/70-1240)を例に——」『西洋史研究』新輯45、48-77頁。

[新刊紹介] Siegfried Wenzel, *Medieval Artes Praedicandi: A Synthesis of Scholastic Sermon Structure*, Toronto, University of Toronto Press, 2015 『西洋中世研究』8、291頁。

渡邊裕一 (ワタナベ ユウイチ)

Inter-local Relationships regarding the Urban Supply of Fuelwood from the Alps: The City of Augsburg, in: 佐藤公美編『アルプスからのインターローカル・ヒストリー——<地域>から<間地域>へ——』 (佐藤公美研究室)、58-68 頁.

「木材供給のための<間地域>関係——都市アウクスブルクの視点から」佐藤公美編『アルプスからのインターローカル・ヒストリー——<地域>から<間地域>へ——』 (佐藤公美研究室)、45-57 頁.

「アルプス山脈・レヒ川流域における森林労働と木材運搬——帝国都市アウクスブルクの史料から」『メトロポリタン史学』12、3-23 頁.